

令和4年度全九州高等学校体育大会第72回全九州高等学校ハンドボール競技大会における  
新型コロナウイルス感染症対策についてのガイドライン

九州高等学校体育連盟ハンドボール専門部  
熊本県高等学校体育連盟ハンドボール専門部

## 1 大会の参加規定

---

### (1) 会場への入場を認める者及び入場時の【提出書類】

#### ① 大会参加校の登録役員・登録選手及びその他の部員

【事前健康チェックシート（様式1）】

…大会1週間前から大会前日までの部員全員の健康状態等を記入し、各チームで保管

【健康チェックシート（様式2）】（チーム）

…試合日毎にチーム全員の体温・健康状態等を記入し、会場受付に提出

#### ② 大会参加校の部員の保護者及び家族、学校関係者（70名以内）

【観戦者体調記録表（様式3）】

…各校の代表者（保護者等）が、試合日毎に入場（観戦）者全員の氏名や体調、体温等  
を取りまとめて、会場受付に提出

#### ③ 専門部から入場を許可された大会役員や補助員、審判員

【来場者体調記録表（様式4）】…入場時に受付で体調や体温等の必要事項を記入

#### ④ 専門部から入場を許可された大会関係者（協会及び大学関係者含む）や来賓、報道関係者

【来場者体調記録表（様式4）】…入場時に受付で体調や体温等の必要事項を記入

※ ①～④以外の者の入場は認めない

### (2) 大会参加者への対応

大会参加校の引率責任者は以下の事項を徹底・遵守し、感染拡大の防止に努めること

#### ① 選手が以下の事項に該当する場合は、大会参加及び会場への来場を認めない。

ア 体調不良の場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）

イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

#### ② すべての関係者（役員・審判員・補助員・顧問・部員・観戦者）は、1週間以内の健康観察及び検温を確実にを行い、37.5℃以上の発熱が3、4日続いた日があったり、極度のせき・倦怠感などの症状があったりしたものについては大会参加及び会場への入場を認めない。

#### ③ すべての関係者（役員・審判員・補助員・顧問・部員・観戦者）は、当日朝及び会場入場時に検温を行い、37.5℃以上の発熱や極度のせき・倦怠感などの症状があるものについては大会参加及び会場への来場を認めない。

#### ④ 大会1週間前及び開催期間中に、関係者（顧問・部員等）から感染者または濃厚接触者が発生した場合、該当者以外の関係者（顧問、部員等）について、大会当日に顧問がPCR検査や抗原検査等で陰性を確認できた者は、大会への出場を認める場合がある。ただし、出場にあたっては、必ず学校長に大会参加への許可を得ること。

## 2 関係者が感染者または濃厚接触者が発生した場合

---

### (1) 大会中に関係者（役員・審判員・補助員・顧問・選手）から感染者または濃厚接触者が発生した場合は、専門部で協議して該当者または該当チームのみの参加中止か、大会自体の中止かの判断をすることがある。

- (2) 大会前及び大会期間中に役員や選手から感染者または濃厚接触者が発生した場合、学校長の責任のもとで大会の参加を再検討し、場合によっては大会の参加を見送る。
- (3) 陽性者、濃厚接触者、体調不良者の判明により大会を辞退しなければならなくなった場合、対戦チームを不戦勝（10-0）とする。
- (4) 大会終了後、1週間以内に新型コロナウイルスに感染したことが確認された場合、各学校や行政機関（保健所）の指示に従い、専門部へ連絡をする。
- (5) 感染者が発生した場合、各校責任者は、感染者を特定しようとすることや、SNS等で誤った情報を発信することのないよう、生徒や関係者に適切な指導を行う。

### 3 大会期間中に発熱者や体調不良者が発生した場合

---

- (1) 発熱・咳・咽頭痛などの症状を訴える役員・選手を確認した場合は、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関に電話等で相談する。
- (2) 上記(1)を訴えた役員・選手からの聴取により、対面での食事やホテルでの同部屋、移動等での接触があった者についても、その後の諸活動を中断させ、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関に電話等で相談する。
- (3) 上記(1)(2)により、現地や帰宅後に医療機関を受診した場合、即座にPCR検査結果が出ないことが想定される。チーム内外に濃厚接触者が多く特定される可能性がある場合は、チームとして、その後の大会参加について専門部と協議する。

### 4 大会参加時の留意事項

---

- (1) マスクを持参し着用する（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用する）。
- (2) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する。
- (3) 他の参加者、大会スタッフ等との距離（できるだけ2m以上）を確保する（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）。
- (4) 参加者は、各自マイタオルを持参し、トイレや手洗い等時に使用する（トイレの布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しない）。
- (5) 試合中に大きな声で会話をしない。また、声援自粛、拍手推奨をお願いします。
- (6) 感染防止のため、専門部が決めた措置を遵守するとともに、大会当日も専門部の指示に従う。

### 5 試合会場における感染防止対策

---

- (1) 感染防止のための遵守すべき事項を整理し、適切な場所に掲示する。
- (2) 4の事項が遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認する。
- (3) 会場入場者にマスクの着用を徹底させる（競技中やウォーミングアップ時除く）。
- (4) こまめな手洗いを呼びかけ、手洗い場には石鹸（液体が望ましい）を用意し、可能な限りアルコール消毒液を必要個所に設置する。
- (5) 参加者にマイタオルを準備させ、タオルの供用をしないことを徹底させる。
- (6) 会場内の換気（窓やドアの常時開放）を徹底する。常時開放ができない場合は一定時間ごとの一斉換気を実施する。
- (7) 会場内のゴミ箱の使用を禁止し、ゴミの持ち帰りを徹底させる。

### 6 各施設及び諸室の感染防止対策

---

- (1) 手洗い場所及び洗面所（トイレ）
  - ① 石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する。

- ② 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする。
  - ③ 入口にアルコール等の手指消毒剤を用意する。
  - ④ 手洗い後に手を拭くため、参加者にマイタオルの持参を求める。布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする。
  - ⑤ 手洗い場やトイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒する。
  - ⑥ トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。
- (2) 更衣室、休憩・待機スペース
- ① 広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける（障がい者の介助を行う場合を除く）。
  - ② ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じる。
  - ③ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については、こまめに消毒する。
  - ④ 換気扇を常に回す、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮する。
- (3) コート、ベンチ、オフィシャル
- ① オフィシャル及び各チームベンチにアルコール等の手指消毒剤を用意する。
  - ② チームベンチの間隔にはゆとりを持たせ、密になることを避ける。
  - ③ オフィシャルはゲームの運営に必要な最低限の人数を配置し、試合毎に交代しながら運営に当たる。
  - ④ モップーには、使い捨て手袋を着用させ、選手の汗等に直接触れないように工夫する。
  - ⑤ 複数の参加者が触れると考えられる場所（ベンチ、ジャッジズテーブル、ゴールポスト、フロア等）については、試合の前半終了後及び試合終了毎に消毒を行う。
- (4) 観戦席・スタンド
- ① 観戦者として入場できるのは参加校の保護者、家族、学校関係者とし、**一般の観客は入場不可**とする。
  - ② 参加校の観戦者の入場の際には、試合日毎に観戦者体調記録表（様式 4）を提出する。
  - ③ 試合会場での混雑を避けるため、試合ごとに観戦者の入れ替えを行う。観戦者は指定された経路や待機場所等を厳守するとともに、自チームの試合終了後は速やかに退場する。
  - ④ 登録選手及び役員以外の部員は、指定された自チームの待機場所で観戦し、コートには立ち入らない。
  - ⑤ 各会場に設けられた応援エリアで、座席等の間隔（できるだけ 2 m 以上）を空けた状態で観戦を行う。
  - ⑥ 応援は拍手のみで行い、鳴り物の使用や、選手への声援、大声での会話等は行わない。

## 7 試合に参加する選手の留意事項

- 
- (1) 審判や選手同士の握手やハイタッチ等を実施しない。
  - (2) 試合中に「握手」「ハイタッチ」「肩を組む」など、競技以外の身体接触を控える。
  - (3) マイボトル及びマイタオルを持参し共有しない。
  - (4) 水・氷を溜めたクーラーボックスを共有しない。
  - (5) コート上でチームメイト、審判員と会話する際にも互いの距離について配慮する。
  - (6) ベンチではマスクを着用し、会話を控える。
  - (7) 試合中に大きな声で会話をしない。また、声援自粛、拍手推奨をお願いします。
  - (8) 更衣室やシャワーを使用する際は、密集を避け、交代で使用する等の工夫をする。

- (9) ミーティングは短時間で行い、密にならないようにする。
- (10) 飲食は、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにする。

## 8 チーム（選手）の移動及び宿泊について

---

### (1) 移動について

個人の車による移動を推奨する。試合のため往復の移動にバスを利用する場合は、過密状態にならないように運行計画を工夫し、各移動の前後にはバスの清掃及び消毒を徹底する。

### (2) 宿泊について

宿泊を伴う移動をできるだけ避ける。必要な場合は、以下の点に注意して手配する。

- ① チーム連絡先と宿泊先を大会主催者が把握する。ホテルの適切な場所に手指消毒ポイントを適切な備品と一緒に設置する。
- ② 到着前と出発時に全室が徹底的に清掃されるように手配する。
- ③ 可能な場合は、すべてのチームメンバーに対して個別の部屋を手配し、一緒に移動してきた参加者全員が同じ階に宿泊するようにする。
- ④ 可能な場合は、食事やチームミーティングの時は専用の個室で行うよう手配する。食事の用意やデリバリーを手配する際は、感染を予防し、対策を講じる。例えば、食事の時間をずらす、他の客と共有のビュッフェスタイルの配膳は避けるなど。

## 9 メディアの対応について

---

試合を取材するメディアに対して、次の内容を遵守するよう伝える。

- (1) 取材者数を最小限の人数で要請し、会場入口で確認シート（別紙5）への記名を行う。
- (2) 事前の健康観察において発熱や体調不良（発熱・咳・咽頭痛など）の場合は会場への入場を見合わせる。
- (3) マスクを常時着用する。
- (4) 取材する上で主催者が示す注意事項を遵守する。
- (5) 取材中は選手との距離はできるだけ2 m以上取り、取材者同士も最低1 m間隔を保つ。
- (6) できるだけ短い時間で取材を終える。